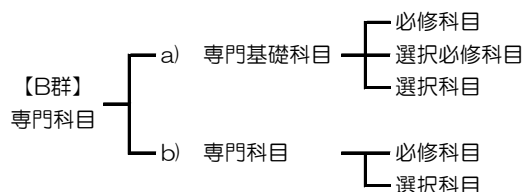


《2015年(平成27年)度入学生用》

## 〔建築学部〕建築学科

School of Architecture  
Department of Architecture



### ■建築学科 カリキュラムの編成

カリキュラムは1・2年次と3・4年次に分かれ、3年次から学科独自のカリキュラムがスタートする。なお、各学科の科目は相互に関連しており、その相違は教育目標の違いといえる。

1, 2年次において、A群「総合教育科目」に加え、B群「専門科目」 a) 専門基礎科目の学習により、建築学の基礎的な諸分野を広く網羅的に学び、技術者として必要とされる基礎的教養科目と、建築技術者に必要とされプロフェッショナルとして備えるべき専門的知識の基礎を身につけることができる。そのうえで、3, 4年次のB群「専門科目」 b) 専門科目を履修することになる。

3, 4年次のb) 専門科目は、建築技術者として必要とされる専門知識を学ぶ場であると同時に、建築学科独自の専門科目群でもあり、応用的で多様なプログラムが細かく設定されている。1, 2年次の教育により、個々の学生が建築の多様性を早い段階で理解することができるようになるため、3年次からの各専門分野においてもっと高度できめ細かな教育を実現することが可能となる。そして、4年間の勉学の集大成として「卒業研究」がある。自己学修能力を高め、社会での知識や技術の適用を確実なものとしていく。「卒業研究」では、学生が自己の適性と将来の進路等を踏まえ、指導教員と相談の上で、「制作」、または「論文」を遂行することになる。

### ■3年次科目履修条件、卒業研究着手条件および卒業条件

本学では、修得単位数、3年次科目履修条件や卒業研究着手条件の充足・未充足にかかわらず、在籍1年目は1年生、2年目は2年生、3年目は3年生、4年目は4年生となる。5年目以降は「留年」となり、「4年生」を繰り返すことになる。ただし、3年次科目履修条件を満たさねば3年生以上でも3年次、4年次配当科目を履修できず、卒業研究着手条件を満たさなければ4年通年科目「卒業研究」を履修できないため、結果として4年生を複数回繰り返す場合もある。これらの条件は3学科共通である。詳細は「履修規定と履修上の注意」を参照すること。

### ■建築学科への配属について

建築学部では、3年次科目履修条件の充足・未充足や休学期間の有無などの事情にかかわらず、在籍3年目から各学科への配属が行なわれる。このときに建築学科に配属された学生は、以降、建築学科に所属して学習することになる。学科配属手続きの詳細については、1, 2年次に開催するガイダンスや説明会のほか、キューポートや掲示等で周知する。配属学科は本人の希望と成績により決定される。

なお、社会における専門分野の横断的な繋がりを踏まえた深化が生じることを踏まえ、3年後期「建築セミナー」と4年通年「卒業研究」の研究室登録手続きでは、所属する学科に限ることなく、建築学部のすべての研究室を希望することができる。研究室登録手続きの詳細については、ガイダンスのほか、キューポートや掲示等で周知する。



〔建築学部〕

建築学科 専門基礎科目・専門科目

2015年(平成27年)度入学生用

専門基礎科目

○印=必修科目, △印=選択必修科目, 無印=選択科目

授 業 科 目				標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)								学位授与の方針					備 考
区 分	種 別	科 目 名	単 位 数	1 年		2 年		3 年		4 年		1	2	3	4	5	
				前	後	前	後	前	後	前	後						
【B】 群 専 門 科 目  a (専門基礎科目)		建築入門	2	1								○	◎				
		建築概論	2		1							○	◎				
	○	基礎設計・図法	2	2									◎				
	○	建築設計Ⅰ	2		2								○	○	○	◎	
	○	建築設計Ⅱ	2			2							○	○	○	◎	
	○	建築設計Ⅲ	2				2						○	○	○	◎	
	○	建築計画Ⅰ	2		1							○	◎				
	○	建築計画Ⅱ	2			1						○	◎				
	○	建築計画Ⅲ	2				1					○	◎				
	○	西洋建築史	2		1							○	◎				
	○	近代建築史	2			1						○	◎				
	○	日本建築史	2				1					○	◎				
	○	都市デザイン	2	1								○	◎				
	○	まちづくり論	2		1							○	◎				
	○	都市計画	2			1						○	◎				
	○	ランドスケープデザイン	2				1					○	◎				
	○	構造力学Ⅰ	2	1								○	◎	○			
	○	構造力学Ⅱ	2			1						○	◎	○			
		構造力学演習Ⅰ	1		1							○	◎	○			
		構造力学演習Ⅱ	1			1						○	◎	○			
	○	建築の構造	2			1						○	◎		○	○	
	○	建築構法	2	1								○	◎				
	○	建築材料	2		1							○	◎				
	○	建築施工	2				1					○	◎		○		
	○	設備計画	2	1									◎				
	○	環境工学Ⅰ	2		1							○	◎	○	○	○	
	○	環境工学Ⅱ	2			1						○	◎	○			
	○	建築設備工学	2				1						◎			○	
	○	建築法規	2				1					○	◎		○		
	△	構造基礎実験	2			2						○	◎			○	
△	材料実験	2			2						○	◎	◎	○	○		
△	環境基礎実験	2			2						○	◎					
△	測量実習	2			2						○	◎	○				
	建築技術者の倫理	2				1						○		◎			
	社会貢献学入門	2	1								○	◎	○	○	○		
	減災学入門	2									◎		○	○	○		
	小 計		70													注1)	

注1) 夏期集中

専門科目

○印＝必修科目、無印＝選択科目

区分	種別	科目名	単位数	標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)								学位授与の方針					備考
				1年		2年		3年		4年		1	2	3	4	5	
				前	後	前	後	前	後	前	後						
〔B〕 群	共通科目	○ 建築演習	2			2						◎					
		建築・まちづくり演習	3				3					○	◎	○	○		
		建築総合演習	3					3					◎	○	○		
		建築情報処理Ⅰ	2			2						○	◎		○		
		建築情報処理Ⅱ	2				2					○	◎		○		
		建築学特別講義	2			1					○	◎		○			
		建築セミナー	2				2					○	◎	○	○		
		学外研修	2				☆										
		イギリス留学まちづくり調査法	3				★						◎	○	○		
		イギリス留学建築計画	2				★						◎	○	○		
	イギリス留学建築デザインA	2				★						◎	○	○			
	イギリス留学建築デザインB	3				★						◎	○	○			
	イギリス留学準備英語	1			1							◎	○	○			
	○ 卒業研究	8							☆			○	○	◎			
	専 門 科 目	建築設計科目	医療施設計画	2			1					○	◎		○		
			建築プロセス論	2			1						◎	○	○		
		建築構造科目	構造解析	2			1						◎	○			
			構造設計	2			1						◎	○	○		
			鉄筋コンクリート構造	2				1				○	◎				
木質構造			2				1				○	◎					
鋼構造			2				1				○	◎					
地盤・基礎工学			2					1			○	◎					
b) 専門科目		建築生産科目	構造デザイン	2					1				○		◎		
			構法計画	2			1						◎	○			
	構造材料施工		2			1						◎					
	内外装材料施工		2			1						◎					
	建築プロジェクトマネジメント		2			1						◎	○				
	ファシリティマネジメント		2				1					◎	○				
	生産設計		2				1					○	◎				
	構法設計		2				2					○	◎				
建築設備科目	建築設備科目	建築経済	2					1				◎	○	○			
		空気調和設備	2			1						◎					
		給排水衛生設備	2				1				○	◎					
		建築環境エネルギーシステム	2				1				○	◎	○	○			
		環境・設備設計	2				2					◎	○				
		環境実験	2					2				◎	○				
電気・情報システム	2						1			○	◎						
小計			83														
※	職業指導	4						1	1								
B 群 合 計			157														

配当学年・学期は変更することがある。また、年度により科目を開講しないことがある。

注1) 夏期集中

注2) ※印の科目は教員免許状取得に必要な科目であって、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。

専門科目

○印=必修科目、△印=選択必修科目、無印=選択科目

授 業 科 目				標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)				学位授与の方針					備 考				
区 分	種 別	科 目 名	単 位 数	1 年		2 年		3 年		4 年		1		2	3	4	5
				前	後	前	後	前	後	前	後						
【B群】専門科目		線形代数学Ⅰ	2	1								◎					
		線形代数学Ⅱ	2		1							◎	○				
		代数学	2				1					◎	○				
		幾何学Ⅰ	2		1または1							◎					
		幾何学Ⅱ	2			1						◎	○				
		ベクトル解析	2					1				◎	○				
		統計学	2				1					◎	○				
		微分方程式論	2			1または1						○	◎				
		複素関数論	2					1				○	◎				
		応用解析学	2				1または1					○	◎				
	小 計	20															

## ◇建築学部3学科共通年次の履修規定と履修上の注意〔第1部 2015年(平成27年)度入学生用〕

### Ⅰ 履修規定（建築学部全学科共通）

#### 3 年次科目履修条件について

本学では、4年生までいわゆる「留年」という制度はなく、4年生まで自動で進級する。しかし、「3年次科目履修条件」を満たさなければ、3年生、4年生であるにもかかわらず、新宿キャンパスの3年次、4年次配当科目を履修することはできない。その条件は以下の2点である(下表1参照)。

最初の「3年次科目履修条件判定」は2年後期末に実施される。この時に条件を満たせない場合は、条件を満たすまで各年度の前期末と後期末に判定されることになる。なお、3年前期末、あるいは4年前期末に本条件を満たした場合は、その年度の「建築セミナー」の履修はできない。

- 1) [B群]専門科目の1、2年次配当のa)専門基礎科目・必修科目全40単位、および、a)専門基礎科目・選択必修科目2単位の合計42単位のうち、36単位以上を修得する(選択必修科目(構造基礎実験、材料実験、環境基礎実験、測量演習)は2単位(1科目)しか履修できない)。
- 2) [A群]総合教育科目、[B群]専門科目から合計62単位以上を修得する[上記1)関連の単位も含む]。62単位以上修得しても、1)を満たさなければ「3年次科目履修条件判定」に合格することはできない。

#### 卒業研究着手条件について

本学の「卒業条件」の一つに「卒業研究」8単位を修得することがあり、「卒業研究」(4年通年科目)を履修するためには「卒業研究着手条件」を満たさなければならない。その条件は以下の7点である(下表1参照)。各条件にいう単位数とは1年生からの累計修得単位数のことである。

「卒業研究」は4年通年科目であるため、最初の「卒業研究着手条件判定」は3年後期末に実施される。この時に条件を満たせない場合は、条件を満たすまで各年度の後期末に判定されることになる(「卒業研究」は4年通年科目なので、各年度の前期末に「卒業研究着手条件判定」は実施されない)。

＝[A群]総合教育科目に関わる条件＝

- 1) a)総合文化科目「1年次指定選択必修科目」(下表2参照)4単位以上を修得する。
- 2) b)自然科学系科目「1年次指定選択必修科目」(下表2参照)4単位以上を修得する。
- 3) c)外国語科目・必修科目6単位すべてを修得する。
- 4) d)保健体育科目・必修科目2単位すべてを修得する。ただし、上限は5単位である。

＝[B群]専門科目に関わる条件＝

- 5) 1、2年次配当のa)専門基礎科目・必修科目40単位すべてを修得する。
- 6) a)専門基礎科目・選択必修科目2単位を修得する。なお、a)専門基礎科目・選択必修科目は2単位(1科目)しか履修できない。

＝修得総単位数に関わる条件＝

- 7) [A群]総合教育科目、[B群]専門科目から合計100単位以上を修得する[上記の1)～6)関連の単位も含む]。100単位以上修得しても、1)～6)を満たさなければ「卒業研究着手条件判定」に合格することはできない。

#### 卒業条件について

本学を卒業するためには「卒業条件」を満たさなければならない。その条件は以下の8点である(下表1参照)。ただし、「卒業研究着手条件」を充足した時点で3)と5)はすでに満たしているため、実質は6点。各条件にいう単位数とは1年次からの累計修得単位数のことである。最初の「卒業判定」は4年後期末に実施される。この時に条件を満たせない場合は、条件を満たすまで各年度の前期末と後期末に判定されることになる。

＝[A群]総合教育科目に関わる条件＝

- 1) a)総合文化科目、b)自然科学系科目を併せて24単位以上修得する(「1年次指定選択必修科目」含む)。
- 2) c)外国語科目を8単位以上修得する(必修科目6単位含む)。
- 3) d)保健体育科目・必修科目2単位すべてを修得する。ただし、上限は5単位である。

＝[B群]専門科目に関わる条件＝

- 4) 1、2年次配当のa)専門基礎科目・必修科目、および、3年次配当のb)専門科目・必修科目の42単位すべてを修得する。

- 5) a) 専門基礎科目・選択必修科目 2 単位(「卒業研究着手条件」の時点で修得済みの 2 単位のこと)を修得する。
- 6) 選択科目を 30 単位以上修得する。この中には建築学部他学科 3、4 年次配当選択科目を 14 単位まで含めることができる。
- 7) 4 年通年科目「卒業研究」8 単位を修得する。
- ＝修得総単位数に関わる条件＝
- 8) [A 群]総合教育科目、[B 群]専門科目から合計 124 単位以上を修得する[上記の 1)～7)関連の単位も含む]。124 単位以上修得しても、1)～7)を満たさなければ卒業できない。

表 1

群	科目区分	3 年次科目履修に必要な単位数	卒業研究着手に必要な単位数(注 1)	卒業に必要な単位数(注 2)
[A 群] 総合教育科目	a) 総合文化科目		1 年次指定選択必修科目 4 単位(表 2)	合計で 24 単位 (含む, a)総合文化科目, b)自然科学系科目の 1 年次指定選択必修科目各 4 単位)
	b) 自然科学系科目		1 年次指定選択必修科目 4 単位(表 2)	
	c) 外国語科目		必修科目 6 単位	8 単位(含む必修科目 6 単位)
	d) 保健体育科目		必修科目 2 単位(上限 5 単位)	2 単位(含む必修科目 2 単位, 上限 5 単位)
	e) 自由研究科目			
	f) キャリア科目			
[B 群] 専門科目	必修科目	必修科目・選択必修科目合わせて 36 単位	1,2 年次配当のすべての必修科目 40 単位	1,2,3 年次配当のすべての必修科目 42 単位
a) 専門基礎科目	選択必修科目		2 単位	2 単位
b) 専門科目	選択科目			30 単位
	卒業研究			8 単位
合計		62 単位	100 単位	124 単位

(注 1) 本条件の合計単位数 100 単位と[A 群]総合教育科目、[B 群]専門科目の必要最小単位数の合計 58 単位との差は 42 単位である。この 42 単位については、各自で卒業に必要な単位数や将来の専門分野などを考慮して計画的に修得すること。

(注 2) 本条件の合計単位数 124 単位と[A 群]総合教育科目、[B 群]専門科目の必要最小単位数の合計 116 単位との差は 8 単位である。この 8 単位については、[A 群]総合教育科目、[B 群]専門科目、他学科科目から自由に修得できる。

表 2

◆ 1 年次指定選択必修科目

	1 年生前期	1 年生後期
総合文化科目	建築ロジカルライティングⅠ または 総合文化アカデミックスキル	総合文化アカデミックスキル 建築ロジカルライティングⅡ
	美術 A	美術 B
自然科学系科目	基礎数学* または 微分積分Ⅰ*	微分積分Ⅰ* 微分積分Ⅱ*
	情報処理入門	物理学概論 A
		化学概論

\*基礎数学、微分積分Ⅰ、微分積分Ⅱの中から複数科目修得しても、すべて卒業単位とはなるが、1年次指定選択必修科目として認められるのはそのうちの1科目のみである。

## II カリキュラムの経過措置と再入学生、編入学生に対する取扱い

- (イ) 学生には、入学年度のカリキュラムが適用される。
- (ロ) 将来、もしカリキュラム改変が実施された場合、入学年度のカリキュラムにない専門科目の単位修得は「建築学部科目変遷表」（その場合は『履修の手引き』に掲載）によって認定される。また、「建築学部科目変遷表」において、現カリキュラムの専門科目に対応する科目と設定された科目は、名称が異なっても、重ねて履修することはできない。
- (ハ) 再入学生、編入学生には、再入学、編入学年次に該当するカリキュラムが適用される。
- (ニ) 編入学生に対する特別措置として、工学部第2部建築学科の開講科目のうち、予め許可された科目については、その科目を履修することで、建築学部の科目履修に代えることができる。詳細は、『履修の手引き』などで別途定める。

## III 履修上の注意

- (イ) 3年次に進級する際、休学期間の有無や3年次科目履修条件の充足・未充足に関わらず、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科のいずれかに所属が決定する。所属において単位を修得した科目と同一名称の本学他学科開設科目があっても、それを重ねて履修することはできない。また、名称の異なる科目であっても、「まちづくり演習」、「建築演習」、「建築デザイン演習」は重ねて履修できない。
- (ロ) 3年後期「建築セミナー」と4年通年「卒業研究」は研究室登録手続きを経て研究室に所属しないと履修できない。研究室登録手続きの詳細については建築学部掲示板などで周知する。
- (ハ) 履修上の注意については、『履修の手引き』の他、必要に応じて建築学部掲示板やキューポートにて指示する。